

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月21日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520483

研究課題名（和文） 現代の敬語使用の諸相

研究課題名（英文） The various aspects of present-day honorific usage

研究代表者

荻野 綱男 (OGINO TSUNAO)

日本大学・文理学部・教授

研究者番号：00111443

研究成果の概要（和文）：

現代の敬語において、調査として行われてきた敬語に影響を及ぼすウチソト・上下・親疎などを考慮した質問文のほか、敬語の使用に影響する要因があるかなど、敬語に関わる調査をいくつかおこなった。また、調査方法として敬語調査に WWW 調査は有用かについても調査している。結果としては、敬語の使用にはウチソト・上下・親疎のほかに相手の性別や外見も話し手の敬語選択に影響しているものの、大きな要因にはならなかった。しかしながら、敬語について影響する意識は年代、性別、職業、学歴によって大きく異なることがわかった。WWW 調査の有用性については、被調査者の居住地や職業、志向性、および嗜好性に偏りが多い。故に、その WWW 調査における偏向性を十分に理解した上で敬語調査に運用すべきだと考える。

研究成果の概要（英文）：

The object of this study is to clarify how people use honorific expressions. Also, I researched about WWW investigation. As a result, the hearer's sex and appearance influenced the speaker's selection of honorific expressions, in addition to *uchisoto* ("inside-outside" categorical recognition), the hierarchical order, and the relative degree of intimacy. But these influences are not so large and are not regarded major factors.

However, it turned out that the influencing consciousness changes greatly by differences of age, sex, jobs, and educational career, and it changes people's honorific usage. Therefore, after understanding the characteristics of the WWW investigation, I think that it should be applied to honorific investigation.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学，日本語学

キーワード：敬語，WWW調査，使用と実態

1. 研究開始当初の背景

敬語調査におけるネットの有用性と問題点を見つめ直し、今後の敬語研究にどのように活かせるか研究を通して探ろうと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、現代の敬語使用を従来の文法や運用の面からだけでなく、多様な要因からその分析をおこない、敬語使用の実態を捉えていくことである。

3. 研究の方法

研究の方法としては、主にWWW調査を使い、人々の敬語の使用実態を調査した。調査については、敬語の使用実態をうかがえる設問をいくつか設定し、リサーチ会社に依頼しておこなった。

4. 研究成果

【2009年度】

言語外情報の一つである視覚に着目し、それらがどのように敬語の使用に影響を与えるかについての調査を含めて基本的な研究を実施した。敬語の使用実態をみる調査と、ことばの使い方の調査をおこなった。この調査では、敬語に影響を及ぼすウチソト・上下・親疎などを考慮して設定したさまざまな人物を提示し、その人物に対して道を教えてほしいとき、どのようなことばの使い方をするか社会人を対象に調査した。結果として社会人はウチソトかの意識がことばの使い方に強く影響する。親疎や職階（立場）などが敬語を使うか使わないかの選択に影響するが、「どの関係を優先するかはその場面の対人関係による」といった現代の敬語重用の使い分けが再確認できた。どのような敬語を使うかといった点では、「～いただけますか」「～いただけませんか」といった言い方が敬意の高い言い方としてやや固定的に使われることがわかった。どのことばを選択するかは無難な言い方に収束していると考えられる。また、WWW調査をするにあたり、WWW調査に回答するユーザー自体の調査を実施した。どのようなインターネットやパソコンの使い方をしているひとが調査対象者となっているのか把握する必要があると考えたためである。結果としてWWW調査のユーザー自体は、会社員や主婦が多い。また、調査自体に興味がある人は少なく、回答後に与えられるポイントや商品を目的としている場合が多い。質問数が11問から20問でも回答するのに面倒だという回答も多く、WWW調査のユーザーは回答者としてやや偏りがあることが確認できた。

2つの調査のうち、さまざまな相手を想定してどのような敬語を選択するかについての聞いたものを報告する。親疎、ウチソト、上下関係それぞれ考慮した聞き手1.～14.に道順をたずねるといった場面を想定して質問した。

問 あなたは直接会って、次にあなたが行く道順をたずねたいときに、1～14.のようひとにそれぞれどのような言い方をしますか。

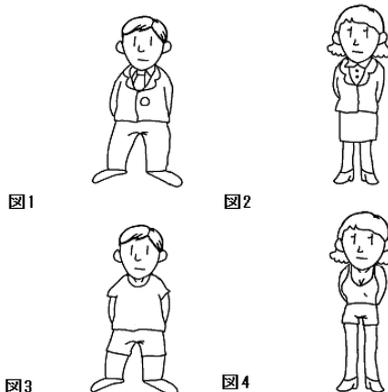
(1問1答の選択式)

⇒ あなた「〇〇という道を(?)」

- | | |
|--------------|-----------|
| ①教えてください | ⑩教えてもらえる? |
| ②教えていただけませんか | ⑪教えてくれない? |
| ③教えてください | ⑫教えてくれる? |
| ④教えてくださいませんか | ⑬教えてくれ |
| ⑤教えてもらえますか | ⑭教えてくれよ |
| ⑥教えてもらえませんか | ⑮教えて |
| ⑦教えてください | ⑯教えてよ |
| ⑧教えてくださいませんか | ⑰教えてね |
| ⑨教えてください | ⑱教えてちょうだい |
| ⑩教えてくださる? | ⑳その他() |

- 1.よく話をする取引先の上司()
- 2.あまり話をしない取引先の上司()
- 3.よく話をする取引先の同年のひと()
- 4.あまり話をしない取引先の同年のひと()
- 5.よく話をする取引先の年下のひと()
- 6.あまり話をしない取引先の年下のひと()
- 7.よく話をする同じ職場の上司()
- 8.あまり話をしない同じ職場の上司()
- 9.よく話をする同じ職場の同年のひと()
- 10.あまり話をしない同じ職場の同年のひと()
- 11.よく話をする同じ職場の年下のひと()
- 12.あまり話をしない同じ職場の年下のひと()
- 13.知らないひと(※スーツ一式を着用しているひと)()
- 14.知らないひと(※ジーンズで露出の多い服を着用しているひと)()

図1、図2、図3、図4のような知らないひと



被調査者は、30代から40代の首都圏に居住する男女1,000人を対象としている。

聞き手

- 1.よく話をする取引先の上司
- 2.あまり話をしない 取引先の上司
- 3.よく話をする取引先の同年のひと
- 4.あまり話をしない 取引先の同年のひと
- 5.よく話をする取引先の年下のひと
- 6.あまり話をしない 取引先の年下のひと
- 7.よく話をする同じ職場の上司
- 8.あまり話をしない 同じ職場の上司
- 9.よく話をする同じ職場の同年のひと
- 10.あまり話をしない 同じ職場の同年のひと
- 11.よく話をする同じ職場の年下のひと
- 12.あまり話をしない 同じ職場の年下のひと
- 13.知らないひと(※スーツ一式を着用しているひと)
- 14.知らないひと(※ジーンズで露出の多い服を着用しているひと)

その他、図1.～4.のよう質問文ではなく、図で聞

き手を示したのも用意した。

結果として、1. あまり話をしない取引先の上司、2. よく話をする取引先の上司は「教えていただけますか」「教えていただけませんか」といったことばがよく選択され、40%前後の回答となっている。上司に関しては、選択されることばが少ないようである。これは、やはり聞き手が取引先の上司ということで話し手はあまりくだけた言い方をしないように意識しているためである。

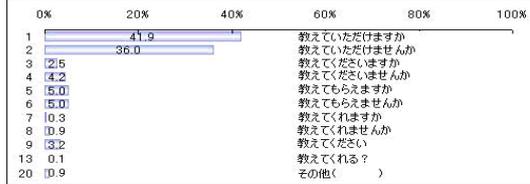
3. よく話をする取引先の同年のひとと 4. あまり話をしない取引先の同年のひとでは「教えていただけますか」「教えていただけませんか」といったことばがやはり多く選択される。5. よく話をする取引先の年下のひと、6. あまり話をしない取引先の年下のひとの聞き手に対して同じように「教えていただけますか」「教えていただけませんか」が30%前後使用されるが、よく話をする同年の相手は「教えてもらえますか」「教えてもらえませんか」といったことばも15%前後使われる。話し手は、聞き手が取引先でソトであるという認識も持ちつつ、同年ということでやややわらかい「モラウ形」を選択したと考えられる。

5. よく話をする取引先の年下のひと、6. あまり話をしない取引先の年下のひとについては、「教えていただけますか」「教えていただけませんか」といったことばの選択が20%前後と多いものの、1. ～4. と比較すると「教えてもらえますか」「教えてもらえませんか」といった「モラウ形」の他にも「教えてくれますか」「教えてくれませんか」といった「クレル形」や「教えてください」といったことばの選択が広くされている。

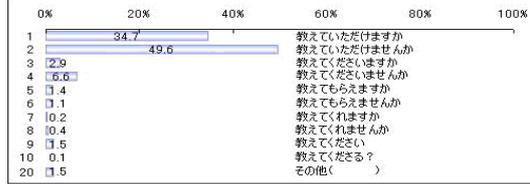
7. よく話をする同じ職場の上司と、8. あまり話をしない同じ職場の上司では、1. 2. の取引先の上司が聞き手の場合と比較しても「教えていただけますか」「教えていただけませんか」といったことばを選択する割合は20%から25%であった。その他「教えてもらえますか」「や」「教えてもらえませんか」「教えてください」といったことばをよく選択している。よく話をする（＝親しいかどうか）によって語の選択は異なり、「教えていただけますか」「教えていただけませんか」といったものの使用の割合がよく話す（＝親しい）上司に対しては10%ほど選択される割合が少なくなった。よく話すということで上司ではあるが、堅苦しい表現の敬語は使われにくくなるようである。これは、話し手の意識によるものであろう。9. よく話をする同じ職場の同年のひとと10. あまり話をしない同じ職場の同年のひと、11. よく話をする同じ職場の年下のひとについては、まず、10. のあまり話をしない（＝親しくない）人に対しては「教えてもらえますか」「教えてもらえませんか」「教えてくれますか」「教えてくれませんか」といったことばをよく使われ、9. 11. 12. のようによく話す同年の人、話す、話さないに関わらず年下の人に対しては「教えてもらえない?」「教えてくれる?」「教えてくれない?」といったフランクな表現が選択される。うちであり、同年になってくると、語形に関しても選択されるものの幅が広がるようである。聞き手が同年以下の人に対してはくだけた言い方を選択するのは、会社という中での上下関係をあらわしているといえるし、また年齢が同年代ないし自分よりも下であるなら気軽に会話するので特にことばの選択に

影響が少ないのであろう。13. 知らないひと（※スーツ一式を着用しているひと）や14. 知らないひと（※ジーンズで露出の多い服を着用しているひと）については、「教えていただけますか」「教えていただけませんか」といった表現が30%前後であった。同じく知らない人を相手に話す場面で、聞き手の衣類が話し手のことばの選択に影響するかについてみたものである。「教えていただけますか」「教えていただけませんか」といったことばをジーンズの人に対してはスーツの人よりも10%ほど使用する割合が減少する。これは、スーツの人のほうが改めて話し手が話すのでよいかと考えられる。スーツであるなら、何かしらの仕事でであり、聞き手が忙しい中で話しかけることの配慮としてことばにあらわれた一つでよいかと推測される。

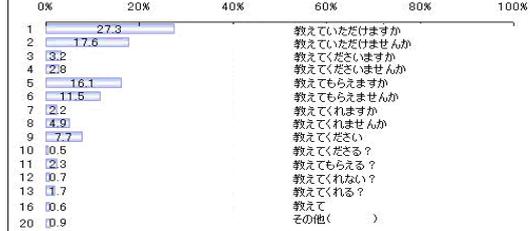
1.よく話をする取引先の上司()



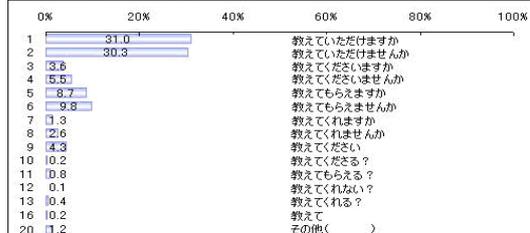
2.あまり話をしない取引先の上司()



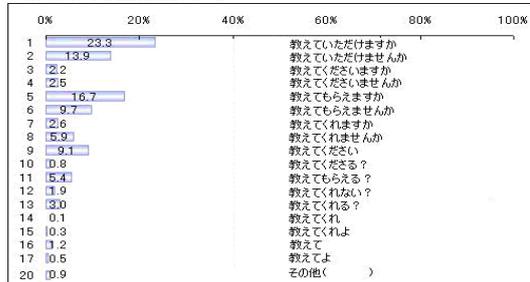
3.よく話をする取引先の同僚のひと()



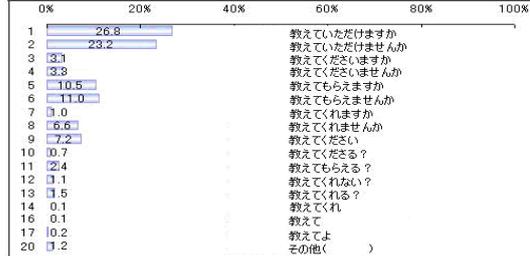
4.あまり話をしない取引先の同僚のひと()



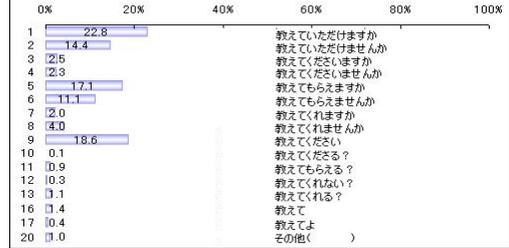
5.よく話をする取引先の年下のひと()



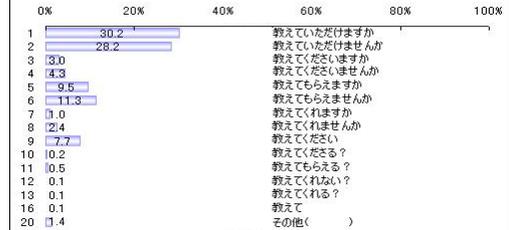
6.あまり話をしない取引先の年下のひと()



7.よく話をする同じ職場の上司()



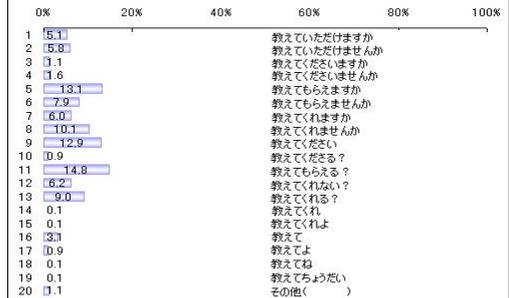
8.あまり話をしない同じ職場の上司()



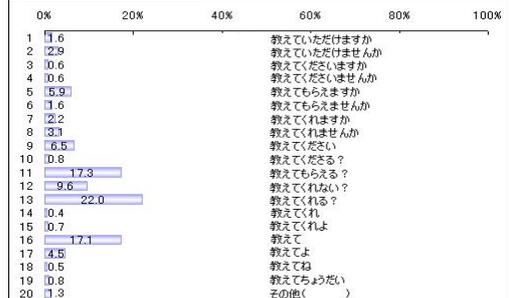
9.よく話をする同じ職場の同僚のひと()



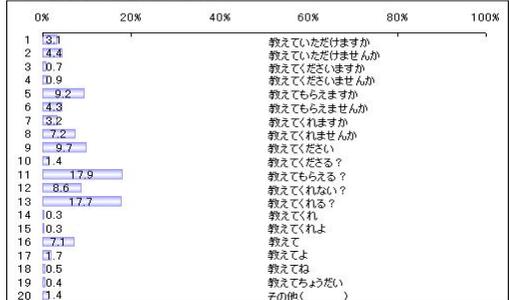
10.あまり話をしない同じ職場の同僚のひと()



11.よく話をする同じ職場の年下のひと()



12.あまり話をしない同じ職場の年下のひと()



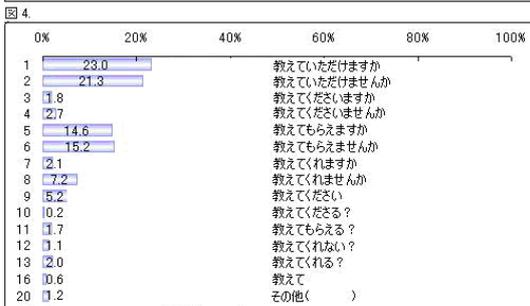
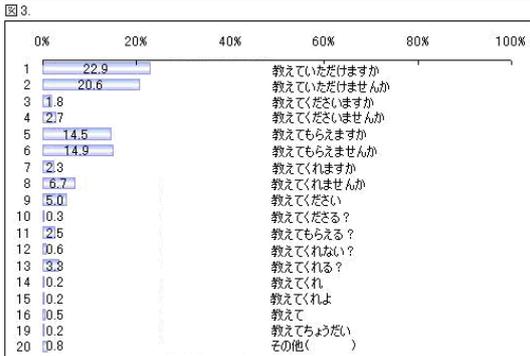
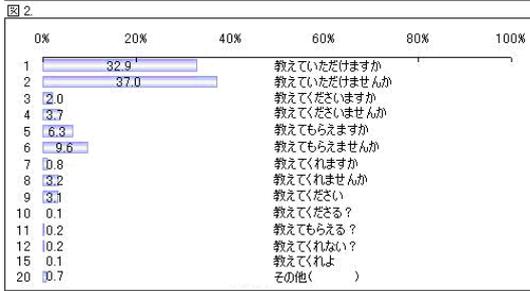
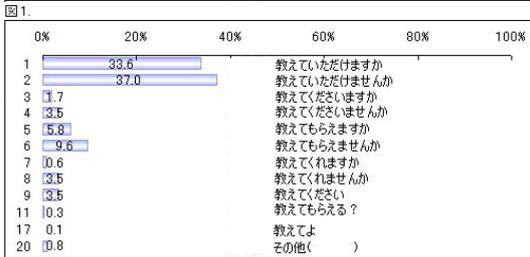
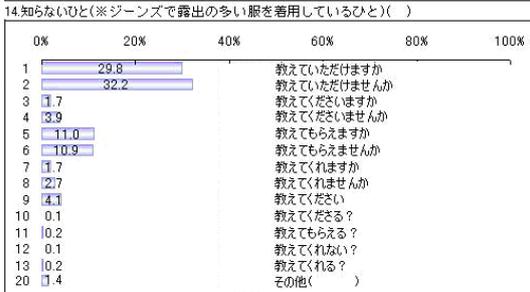
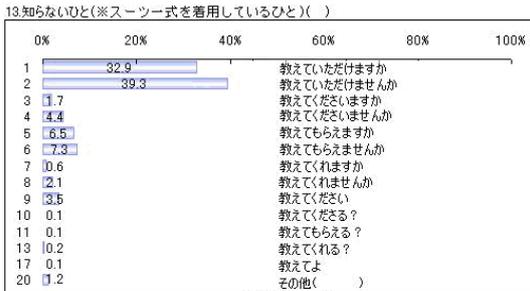


図1.～図4.に関しては、知らない人が聞き手であり、なおかつ衣類が異なる状況の場合のようにことばの選択をするかについて聞いたものである。質問文にはイラストを添付した。結果として、質問文だけのものとイラストを添付した質問文ではことばの選択に影響はなかった。聞き手の衣類の違い(スーツからラフな衣類か)によって話し手のことばの選択は異なる。聞き手がスーツの着用の方が「教えていただけますか」「教えていただけますか」といった丁寧な言い方が選択される。これは、13, 14と同じく、聞き手への話し手の配慮の一端がことばに反映しているのではないかと考えられる。

【2010年度】

人々の言語意識やWWW調査自体に関わる問題について調査をおこなってきた。一年目の調査の結果を踏まえて、敬語に関わる質問を様々な年代の回答者に尋ねる調査をおこなった。加えて、WWW調査において登録している回答者はどのような属性の人なのかについても併せて調査をおこなった。結果として、WWW調査の回答者は20代から30代、40代の会社員、主婦(夫)などといった年代、職業の人が多く、趣向も偏りがあり、ネット回答者自体の「属性」というものがあることがわかった。今後、WWWを調査媒体とする際のメリットとデメリットがあるため、敬語調査に使用するにはその点を踏まえる必要がある。

【2011年度】

最終年の三年目には、二年間の調査を終えての結果の考察および、反省、また敬語の使用実態についての調査、およびWWW調査だけでわからないことをインタビュー調査でたずねることとした。

インタビュー調査においては今までWWW調査でフィールドとしてきた首都圏都市部の居住者ではなく、郊外の町に住む高齢者を中心に聞き取りをおこなった。WWW調査のように調査者側の設計した質問だけではわからない人間関係、人付き合いをどうとらえるのか、敬語を使うことの意味、意識についてだけでなく、ことばに結び付く人々の生活意識について得られるものがあった。

本研究では3年間の調査を通じ、従来の研究方法のほか、WWW調査のほか、敬語やその意識、周辺に関することばの調査など複数回にわたりおこなってきた。敬語使用に影響があるものについて、複数回の調査により、敬語の使用実態を細かく調査することができた。

敬語調査におけるWWW調査のメリット、デメリットも把握できた。今後も、問題点も含めて調査手法としてどのように応用できるか考えていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

- ① 荻野綱男「私が勧めるこの一冊『国立国語研究所報告 11 敬語と敬語意識』日本語学 Vol. 30, 2011, No. 2, pp. 74-78, 査読なし
- ② 荻野綱男「ITコミュニケーションか

ら見る日本語の将来」学術の動向
Vol.16, 2011, No. 5, pp. 104-107, 査読
なし

③ 荻野綱男「研究がうまくいくとき, いか
ないとき」日本語学 Vol.29,
2010, No. 2, p. 33, 査読なし

④ 荻野綱男「日本語学の見地からデータ
収集の過去 100 年と未来 100 年を考
える」第 8 回韓国日本学連合会国際学術
大会予稿集（招待講演）, 2010,
pp. 21-25, 査読なし

[学会発表] (計 1 件)

① 荻野綱男「敬語の丁寧さの 3 次元数量
化」日本語学会 2011 年度春季大会予稿
集, 2011. 5. 29, pp. 267-274

[図書] (計 1 件)

『計量国語学事典』(編著) 朝倉書店
2009. 11, pp. 274-277, pp. 281-286,
pp. 296-297

6. 研究組織

(1) 研究代表者

荻野 綱男 (OGINO TSUNAO)
日本大学・文理学部・教授
研究者番号: 00111443

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし